

福岡県小学校

校長会報

志と環(わ)

福岡県小学校長会 会長 廣 渡 一 郎
(糸島市立南風小学校長)



福岡県小学校長会会員の皆様こんにちは。令和六年度福岡県小学校長会の会長を拝命しました糸島市立南風小学校の廣渡

一郎と申します。どうぞよろしくお願ひします。

今、私が大事にしたいこと。その一つは、教育の新しい方向を見据え、これまで先輩方が積み重ねてこられた取組や思いを受け継いでいくこと。二つは、私たちの目の前にたちふさがるさまざまな教育課題、その解決に向けて県校長会としての動きを充実させること。そして三つは、来年度にひかえる全国連合小学校長会福岡大会の準備を会員一丸となつてすすめることです。

このことをふまえ、今年度の県小学校長会活動スローガンとして「志」と「環(わ)」という言葉を選びました。

志とはだれかのため、何かのために、という利他の心に基づく主体的創造的な働きかけ。環とは、とぎれることのない人と人とのつながりです。

さまざまな課題に正対している今、私たち校長が郡市、地区、県域や政令市の壁を越えてつながること。あわせて行政やPTA、中学校長会や教頭会とのつながりをさらに太く、強くしながら志をもって学校経営を進めていく。そのことが教職員のやりがいと手応え、ひいては子どもたちの笑顔につながると考えています。

具体的な取組として、本年度は特に次のことに力を注ぎます。
調査研究活動。大事にしたいことが大きく二つあります。

一つは新しい研究主題の周知。

「志をもち 多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」。これが来年度の全連小福岡大会の副主題にもなります。キーワードの志、多様な他者との協働、そして人財育成の財に込めた意味。これらを周知していきます。

二つはアンケート調査結果の活用。

今年度も郡市から学校を抽出いただき、アンケート調査を実施します。これは国や県の要望活動における資料として活用させていただいていますが、この内容を各郡市、各学校の取組に生かしていただけるよう働きかけます。

組織の活性化と活動の充実。ここでも特に次の二つのことに力を込めます。

一つは被災地とのつながり。

これまで続けてきました宮城、福島への視察を通して危機管理徹底への学びを続けるとともに、能登半島地震における被災地への支援を県小学校長会として行いたいと考えています。

二つはホームページの充実。

「会員の皆様が開きたくなるホームページ」となるよう、今年度も内容の充実と発信を続けてまいります。

運営のこと。対面による会議や研修を基本としますが、研修内容や状況によってオンライン、ハイブリッドを活用して私たちの学び合いの場を最適化していきます。

本年度、どうぞよろしくお願ひします。

発行人

福岡県小学校長会
会長 廣 渡 一 郎

事務局

〒812-0053 福岡市東区箱崎2丁目52番1号
福岡リーセントホテル1階
TEL (092) 292-2292 FAX (092) 292-2294

退任副会長挨拶

副会長退任にあたって

前副会長（福岡地区） 石 硯 昭 雄

令和五年度福岡地区小学校校長会並びに福岡県小学校長会副会長の任を賜り、多くの学びを体験させていただきました。黒澤会長様をはじめ運営の中核となっていました。事務局長、小学校長会事務所の皆様、そしてお会いできた全ての校長先生方に心よりお礼申し上げます。

令和五年五月に、新型コロナウイルスが五類感染症へと移行になり、学校の教育活動への制限も少なくなくなりました。しかし、このことは何もかもコロナ禍以前に戻るということを意味するのではなく、ポスト・コロナ時代の新しい学校をどう創っていくべきか、私たちは改めて検討する必要に迫られていると感じています。

振り返りますと、直近の五年間において学校が被った変化はとて大きなものでした。国の施策だけを見ても学習指導要領改訂、令和の日本型教育に係る答申、生徒指導提要改訂、新しい教員研修制度の開始等があります。そのどれもがコロナ禍の混乱期において情報開示されたために、実施状況を見ると、浸透・徹底にはまだ課題が見られるように感じています。さらに、学校現場では大量退職・大量採用を通り越して、教員数そのものの不足という課題があります。

このような状況の中では、どんなに優れた人物であっても、一人の校長ができることには自ずと限界があります。本年度、全国連合小学

校長会総会や要望書に係る福岡県教育委員会との回答説明会に参加する中で、校長会の協働や連携がいかに重要かを改めて痛感しました。これからも「つながること」「つなぐこと」を大切にして参りましょう。福岡県小学校長会が、益々、充実・発展することを切に祈念します。

副会長退任にあたって

前副会長（北筑後地区） 日 野 勝 文

令和五年度、北筑後地区小学校校長会の役員とともに、副会長として福岡県小学校長会に関わらせていただきました。

五月には、黒澤会長、廣渡幹事長様方とともに全国連合小学校長会総会に参加させていただきました。夜には懇親会を企画していただき、福岡県の各地区会長との懇親は私にとって校長会を推進していくにあたってとても参考になりました。そして、総会においては、前全国連合小学校長会長の大字弘一郎校長の「学校を元気にする」という力強い言葉が鮮明に残っています。さらに、文部科学省の教職員課長等の説明から、授業時数のことを検討する機会となりました。

様々な情報を地区会長会にいただくことで、「校長が学びを止めない」ことを強く感じたとところです。また、昨年度の福岡県小学校長会のスローガンである「不易と流行」を基に、これまでの校長会のよき伝統と、時代の流れに沿う経営マネジメントを融合させ、変化の中で自ら新たな価値を作り出す取組を模索し実践を行なった一年だったかと思えます。本市では、子

どものための働き方改革ということで、授業時数や学校行事等を見直したり、通知表の内容を検討したりしました。また、北筑後地区では、研究大会をオンライン開催で行い、アフターコロナでの研究大会の在り方を模索しました。最後になりますが、今後の福岡県小学校長会のみならずの充実・発展と県下の校長先生方のご活躍を心から願っています。本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

副会長退任にあたって

前副会長（南筑後地区） 上 田 理 彰

令和五年度、南筑後地区小学校校長会、福岡県小学校長会副会長の役職を務めさせていただきました。

県の副会長という立場で、年に数回、福岡県小学校長会事務局において、県校長会活動方針や予算、事務局・各部・委員会の活動内容の報告、協議などに参加させていただきました。黒澤真二会長様をはじめ、事務局の皆様が、中央や他県との研修会及び協議、県校長会運営の充実・発展のために、事前協議や県内六地区との連絡調整など、ここには書き尽くせない程の業務に、御尽力されていることを新たに認識することができました。

昨年度、二年度次校長研修会や京築地区で実施された福岡県小学校長会研究大会に参加させていただきました。そこでは、各地区での校長先生方の学校経営の考え方や組織運営、人材育成、学力向上の方策など、多くのことを学ばせていただきました。また、東京で開催された第

七十五回全国連合小学校長会研究協議会において、分科会に参加し、校長のリーダーシップの在り方やICT活用の意識改革について、他県の校長先生方と協議や情報交換ができ、貴重な機会を得ることとなりました。

今後、福岡県は令和七年度に全国大会を控えています。県内の全校長先生が結束して、成功裏に終わることを期待しています。

最後になりますが、福岡県小学校長会のままの充実と発展を祈念いたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。一年間大変お世話になりました。

副会長退任にあたって

前副会長（筑豊地区） 亀谷 勝 弘

この度の退任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

私は、令和四年度に中学校籍から小学校籍に異動してきました。いくら中学校で校長職を務めていたからといっても、文化も違う経験もない小学校勤務は、戸惑うばかりの毎日でした。

令和五年度に、縁あって地区の校長会長並びに県の副会長を務める機会をいただいたことで、素晴らしい出逢いと貴重な経験をさせていただきました。特に、五月に東京において開催された、全国連合小学校長会第七十五回総会・研修会に参加させていただいたことは印象に強く残っています。会場は、全国から集まった校長先生方で、大変な熱気に包まれていたことを思い出します。ステージには、各総会議案が書かれた大きな垂れ幕が、何本も並んでいるのに圧倒

された上に、その中で厳粛に総会が終了したことを覚えていきます。その後の研修会では、文部科学省の宮崎活志主任視学官より「当面する初等教育の諸問題」についてご講演いただきました。内容は、健康リテラシーや幼児教育、プログラムミング教育、コロナ後の学校、英語教育等々多岐に渡り、今後の初等教育の動向に関わる貴重な情報を直接得ることができました。

他にも、様々な出合いを経験させていただいた上に、一年間ご指導・ご支援いただきました黒澤真二会長をはじめ、県小学校長会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

最後になりますが、今後の福岡県小学校長会のみならずの充実と発展、県下の校長先生方のご活躍を心から祈念申し上げます。本当に、良き出合いをありがとうございました。

副会長退任にあたって

前副会長（北九州地区） 池田 辰 也

令和五年度、北九州地区小学校長会長、県小学校長会副会長の役を賜りました。県校長会の組織や活動内容について、理解できているとは言えない中でのスタートでしたが、黒澤会長をはじめ事務局幹事会の皆様や、他地区会長の皆様のお力添えをいただきながら、県小学校長会に関わらせていただきました。

振り返って思い起こすのは、まず、北九州地区小学校長会研修会を四年ぶりに集合研修として開催したこと。四年前の記憶がない中で、担当地区として他地区会長様のお力添えをいただきながら実施することができました。次

に、二年次校長研修会への参加です。グループ別協議では、集った校長先生方と苦しい学校経営の現状について本音で語り合い、大いに盛り上がりました。また、リモートではありましたが、大津校長先生の講話には引き込まれました。深刻な教員不足の課題に対する「今の先生が魅力的であれば、将来の教員確保につながる」という言葉は、私が常々考えていることと同じであり、大変勇気をいただきました。そして、福岡県小・中学校教育の充実に関する文教施策ならびに予算についての要望書に関する説明会への参加も印象に残っています。添付資料等が丁寧に準備され、県の回答に対しても活発な意見交換がなされていました。重要な校長会活動のひとつに立ち会った貴重な時間となりました。このように、様々な研修会や会議等に参加することで多くの学びを得ることができました。

最後に、今後の福岡県小学校長会の充実と益々の発展を祈念いたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

副会長退任にあたって

前副会長（京築地区） 篠田 宏 記

この度、副会長を退任させていただくにあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年度は京築地区（築上郡）が福岡県小学校長会研究大会の担当地区となり、少人数の校長会でどこまでできるのか不安と緊張の中、準備を進めて参りましたが、早い時期から調査研

究部をはじめ、県事務局の皆様のご助言や尽力により、ハイブリッド型での開催ができました。誠にありがとうございます。三名の校長先生のすばらしい実践発表、川島特任教授の指導・講評を通して実践発表の価値を共有することができました。また、日産自動車九州株式会社執行役員の東俊明様による講演「変革の時代を生き抜く組織・人財を考える」では、経営者に求められる資質や能力、グローバル企業の経営理念や人財育成など、これからの学校経営について、たくさんのご示唆をいただきました。時間の都合で、最後まで講話を拝聴できなかったことや一部映像の乱れがあったこと等、至らないところも多々あったと思いますが、多くの皆様のご協力によって、無事に研究大会を終えることができました。誠に感謝しております。校長として最後の年に、地区会長や県副会長を務める機会をいただいたことで、本当に貴重な経験をさせていただくことができました。

改めて、一年間ご指導・ご支援いただきました黒澤真二会長をはじめ、県小学校長会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

最後になりますが、令和七年度の全連小福岡大会の盛会と今後の福岡県小学校長会の益々の充実・発展を祈念いたし、退任の挨拶とさせていただきます。



特集

新任校長として

「日の出」力を土台に、主体的に
取り組める子どもの育成に向けて

春日市立日の出小学校長 白石 江里

本校は、春日市の北側に位置しており、児童数三百四名、特別支援学級五学級を含む十七学級の市内では小規模の学校です。平成十一年に開校し、今年で創立二十六年目を迎えますが、開校以来、コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域が一体となつて子どもたちの育成に努めています。

私は、本年度校長を拝命しましたが、昨年度一年間教頭として本校に在籍していましたが、子ども・保護者・地域・教職員の顔が分かること、前校長先生の学校経営を近くで学ばせていただいたことを強みとして、自分なりの学校運営を目指していきたいと考えています。

本校の教育目標は、「主体的に地域とつながり、たくましく生きる子どもの育成」です。本年度の重点目標は、「『日の出』力を土台に自他相互に高まる『主体性』の伸長」です。

- 「日の出」力
- 自分から「つながり」をつくる
 - 自分で「きまり」をまもる
 - 最後まで「粘り強く」取り組む

重点目標達成に向けて、取り組んでいきたい

ことは三つです。

- 目指す子ども像を、教職員・子どもたちがいつも意識できるようにすること
- 本校では、

目指す子どもの姿を、マスコット「サンちゃん」の

三つの姿として、共有しています。子どもたちには、

学校行事や集会、教職員には会議などを通じて、具体的な姿を例に示しながら、様々な場面で発信していきたいと考えています。

- 主体的で協働的な職員集団をつくること
- 校務分掌部会や研究推進委員会においては、

目的を共有した上で、「やってみよう」を合い言葉に主体的に教育活動を進めることを推進しています。また、ミドルリーダーを主務者として取り組ませ、これまでの常識にとらわれない発想も大切にしています。

- 地域とのつながり方を再構築すること

直接、人と関わるのが難しくなった数年間で、地域人材の高齢化など、状況は大きく変化しています。子どもたちが、地域の人・もの・ことに、主体的に関わって、つながりをつくることのできるように、新たな地域人材の発掘だけでなく、新たなつながり方を構築していこうと思います。

最後に、社会が急速に変化する予測不能な時



【3つのサンちゃん】

代の中で、自分のよさや可能性を知り、自ら主体的に学ぶ力は欠かせない力です。

その力をつけるために、コミュニティ・スクールを推進する学校として、学校・家庭・地域の連携を核としながら、教職員が一丸となつて、教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。

みんなが創る よりよい莊島をめざして

久留米市立莊島小学校長 永松 由美

毎朝大きな声で

「おはようございます。」

と挨拶をする子どもたち。中には立ち止まつて言う子もいて、子どもたちからパワーをもらっています。

そんな莊島小学校は、明治五年に創立され、本年度で百五十二年目を迎えます。久留米の中心部に位置しながら、現在でも昔ながらの風情を残す、落ち着いたところがあります。また、青木繁や石橋正二郎と名立たる先人たちが多く輩出し、地域の方々の誇りでもある学校です。長い伝統のある学校で、校長職を拝命し、身の引き締まる思いです。

地域とのつながりが深いことを生かし、本年度よりコミュニティ・スクールを立ち上げました。莊島コミュニティセンターとの学習や校区探検、交流会などを基盤に、莊島を愛し、莊島を誇りに思う子どもたちを育てたいと思ひます。

本校の教育目標「げんきに学んで 正しくすすむ子どもの育成」（石橋正二郎の言葉）を達

成するために、「みんなが創るよりよい莊島」と重点目標を立てています。具体的にスリーアップ大作戦とし「伝える力のアップ、つながりのアップ、すばやきのアップ」で三部会を中心に取り組んでいます。

特に、「つながりをアップするために、話し合い、ちがいを認め合いながら（折り合い）行動していこう。」と教職員や子どもたちにも機会を見つけては話をしていきます。一年生を迎える会では、たてわり班のリーダーとして六年生が遊びを考え、班ごとに楽しく遊ぶことができました。そんな姿を学級の中、学校の中に文化として創っていきたくと思っています。相手のことを考えて行動することができるようになると、きつとつながりがアップします。伝える力もすばやさもアップできるのではないかと考えています。

また、教職員にとつて、働きがいのある学校でありたいと思っています。毎年恒例の行事を消化するだけでなく、三部会の中でめざす子ども像につながるために、一年間の取組を計画し全職員で取り組むシステムを充実させたいと思ひます。運営委員会や職員会の中で、PDCAを



【いちようの木】

回しながら、やりがいを感じてもらいたいと思ひています。

これから校長として判断しなければならぬことが多くなると思ひます。その時に大事にすることは「子どもを中心」です。子どもたちにとってどうなのか、目的は達成できるのかの視点を忘れないようにしたいと思います。

教職員を大事にしたいと思ひます。日頃からの対話を行うことはもちろん、何をすることも必ず話し合つて進めていきたいと思ひます。それぞれの得意なことや強みを生かしながらかつながらをアップし、よりよい莊島を教職員と一緒に築いていきたいと思ひます。

「地域の方に支えられ、子どもを 中心とした学校づくり」を目指して

柳川市立昭代第一小学校長 古賀 柳信

昭代第一小学校は、柳川市の最西端に位置する全校児童百九十四名の学校です。校区の南部には筑後川が流れており、田園風景が広がる自然豊かな地域にあります。また、江戸時代から開かれた昭代干拓を中心に農作物の生長と共に生き物など季節の移り変わりも感じることできる恵まれた環境にあります。

明治八年に創立された間小学校を前身として、開校以来百四十年を超える歴史のある本校は、地域の方々に支えられながら教育活動を行つてきました。近年では、米作りや梅の木街道公園梅祭などをはじめとして、年間を通して地域の方のお力添えの下、学習活動を行つてい

私は、昨年度一年間、教頭として本校に在籍し、本年度四月に校長職を拝命しました。子ども・保護者・地域・教職員が分かる強みを生かし、学校経営を行う決意を新たにしました。一方では、これまで教頭として三人の校長に仕えてきましたが、その時々で果たして校長の必要とする補佐ができたのかを振り返り、反省しているところです。



【校舎とメタセコイヤ】

そこで、昭代第一小学校の校長として、次の五つを経営理念として学校経営にあたります。

- ① 人権・同和教育をすべての教育活動の基盤とする。
- ② 子どもを中心とした学校経営を行う。
- ③ 地域・保護者との連携を大切にし、教育活動を行う。
- ④ 教職員を大切にする。
- ⑤ 情報収集を適切に行い、校長としての決断を大切に行う。

まだまだこれらの経営理念を十分に具体化できていないことは課題であります。学校経営はさらに学校を知り、地域を知ることから始まります。ですから、校長室にいる時間を極力減らし、教室訪問や児童・教職員との会話、地域に足を運ぶことを今後も地道に続けようと思いま

す。

さて、本年度の重点目標は、「考えを伝える子ども」の育成です。目標達成に向けて年度当初に「しようだい」を合い言葉として、教職員と児童で共通理解しました。

「し」しつかり学び

「よ」よく考え

「う」うつくしい心で

「だい」大事なことを伝える子ども

この子ども像を目指すためには、自己有用感に裏付けられた自尊感情の高揚が大切になってきます。そこで、特別活動の充実も図り、子どもを中心とした学校経営に努めます。

冒頭で述べたように、本校は地域に支えられています。安心して子どもが活躍できるように、さらに地域との連携を深め、「地域の方に支えられ、子どもを中心とした学校づくり」に邁進していきます。

「チーム幸袋」を目指した学校経営

飯塚市立幸袋小学校長 野見山 和久

本校は、平成二十九年度に二小一中が合併した施設一体型の小中一貫校として開校し、本年度で八年目を迎えます。在籍児童生徒数は小学部が四百四十四名、中学部が二百三十八名、計六百八十二名で、小学部は特別支援学級六学級を含めた全二十学級という中規模校です。

斜面に沿って新築された校舎は地上四階地下一階という少し変わった造りで、小学部と中学部の教室はフロアを分けていますが、共有部も多く職員室も同じ部屋を使っています。私

は、その小学部第四代の新任校長として今年度着任しました。

新年度になった初日に職員に示したのは、「チーム幸袋」を意識した学校経営を行うっていくこと、すなわち、教職員・児童・保護者・地域の連携を大切にしていこうということです。子どもは学校や学級だけで育てているのではないこと、家庭や地域の関わりの中で育っていることを、自分自身の教職経験や社会教育現場に身を置いた経験などを踏まえながら共有していきます。

併せて、まず、我々教職員が大切にすべきことは何かを、教育学者である森信三氏の「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を借りて共有しました。

①「時を守る」とは、相手を尊重することであり、時間や期限を守ることによって相手の時間も大切にされる。

②「場を清める」ことで、少しの乱れや異変にも気付くことができる。また、心を磨き、感謝の心を育む。

③「礼を正す」とは、挨拶や正しい言葉づか

【児童会の取組「幸袋校のあ・い・さ・つ」】

いができることで、良好な人間関係が育まれる。

これらを徹底し、教職員が模範となることで、それが子どもたちの姿に映し出されきつと変化が生まれるはずだ、ということをお伝えしました。

その中で、まず初めに取り組んでいこうと考えたのが挨拶です。本年度の重点目標の一つに「ルールを守り、気持ちのよい挨拶や適切な言葉づかいができる児童の育成」を掲げ、この一年間の徹底を教職員に呼びかけました。

四月当初は、登下校時に見守りをしてくださる地域の方から、子どもたちの挨拶に対する指摘を受けましたし、私自身も同じように課題を感じていました。そこで、まずは自分自身が模範を示し機会をとらえて子どもたちや教職員に発信したり、児童会への協力を依頼したりしていきました。その結果、最初は率先して挨拶する子どもは僅かだったのが、一か月後には、大半の子どもが自分から先に挨拶をしてくれるようになりました。その背景には、先生方が教室でも同じように声をかけ、通信などで家庭へ発信してくれたことなどがあります。チームとして取り組んだ成果が短期間で芽を出し、少しずつ花を咲かせようとしています。

これからも「チーム幸袋」を合言葉に、子どもたちや保護者、地域と笑顔でつながりあえる学校づくりを目指していきます。



学校経営への思い

宮若市立宮若西小学校長 海老佳史

本校は、五つの小学校と二つの中学校が統合して「宮若市立小中一貫教育校わかみや校」として開校し、今年度で八年目となります。

四月一日、学校経営への思いを先生方に話をしました。この学校には、二年間、教頭として勤務し、自校での昇任でありましたので、大変話しやすく、先生方も頷きながら、真剣な顔つきで聞いてくれました。

その時に話をしたのは、「子どもが居心地のよさを感じる学校」「教師がやりがいを実感できる学校」にしたいということです。

子どもにとって、教室は「居心地がいいところ」でなくてはなりません。子どもたちが、「この学級の友達や先生と、ずっと一緒にいたい」とか、「自分はこの教室にいてもいいんだ」と感じることができる教室は素敵です。そのためにも、子どもが、毎日「学校が楽しい」と感じていることが大事だと思います。保護者も、我が子が学校で楽しく過ごしているのかを気にしています。子どもが学校から帰って、楽しそうに学校や先生の話をしたら、この先生でよかったという気持ちで芽生え、安心感をもつことができます。

教師が「やりがい」を感じる場面は、子どもの学力が伸びたとき、子どもや保護者から感謝されたときなど、たくさんあります。この「やりがい」を感じることができれば、「子どもたちのために頑張ろう！」という意欲もわいてきます。一年間、教師が本気で頑張った結果、

「一年間、楽しかった！」「この学級でよかった！」

と、どの子どもも笑顔で言ってくれたとき、子どもたちのために頑張ったよかったです、教師としての「やりがい」を、しみじみと感じます。

子どもを育てようと本気で取り組むこと、一人一人の子どもと本気で関わっていくこと、生徒指導上の問題に本気で向き合い全力で問題解決にあたること、子どもたちと本気で学校行事に取り組むことなど、あらゆる場面で教師の本気が伝わることで、子どもの大きな学びと成長につながると思います。そのためには、教師に「魅力」が必要となります。「魅力」とは、人の心を引き付けて夢中にさせる力です。教師というのは、子どもの心をぐっと引き付け、子どもをその気にさせることができる力が必要です。

学校経営には、「こんな学校をつくりたい」「こんな子どもを育てたい」「こんな教師であ



【宮若市立小中一貫教育校わかみや校】

「ってほしい」というビジョンが明確にあるかというところが大事だと感じています。それがあれば、日頃から先生方に繰り返し本気で語ることができ、思いが伝わると思っています。今後も、目指す学校像や教師像について、自分自身の言葉で語り、リーダーシップを発揮していきたいと考えています。

「やさしく かしくく たくましく」

みやこ町立犀川小学校長 吉武 知美

今年度、初めてみやこ町に異動し、校長に昇任しました。初めての赴任地で初めて校長という立場で子どもたちや職員と出会うことに、本当に身の引き締まる思いでした。本校は、四年前(令和二年)度、犀川地区の城井小学校・上高屋小学校・柳瀬小学校と統合しました。校舎も新しく建て替わり、心機一転スタートした学校です。校区が広いので、スクールバスで登下校している児童も多くいます。周りには山や田んぼが広がり、大きな池や川も流れている自然豊かな環境に恵まれています。地域とのつながりも強く、毎朝の見守り隊(登校時の交通立哨)はもちろん、歓迎遠足も引率していただきます。学校や家庭だけでなく、地域の皆さんとともに子どもたちを育てていける環境が整った地域です。今年度からは、コミュニティ・スクールもスタートし、更に地域とともに歩んでいく学校をつくっていききたいと考えているところです。

そんな長閑な本校に赴任し、初めて児童と

対面したときの印象は「あいさつ上手で人懐っこく、素直な子どもたち」でした。初対面とは思えないくらい、目をきらきらさせながら話しかけてくる子どもたち。こんな素敵な子どもたちの輝きを、もつともつ



【見守り隊の皆さんと行った歓迎遠足】

と増やしていきたい、心からそう思いました。

本校のスローガンは「やさしく かしくく たくましく」です。これを具体化し、どのように子どもたちと接していくかは、それぞれの先生方の腕の見せ所です。ただ、共通して意識して欲しいことは、職員会や終礼など、折を見て話すようにしています。まず、年度当初に話したことは「何事も粘り強く取り組む子どもを育てましょう」です。これは、前年度の校長からの引継ぎ内容で、本校の児童は素直で、与えられた課題には取り組むことができるが、最後まで粘り強く取り組むことができていないということからでした。粘り強く取り組むには、基本的な知識・技能が身に付いており、それを活用

することが必要な力が必要です。それらの力が付くように、横(友達同士)のつながりを頼ったり、先生の手助けを求めたりできる環境をつくらせておきましょうと話しました。つまり、学級や学校の中での自己有用感を高め、一人一人の居場所をつくっていくことです。その第一歩として、朝、登校してきたときに、ただ「おはよう」と挨拶するだけではなく、「○○さん、おはよう」と名前を付けましょう、と伝えました。この取組から、学級(学校)の基盤づくりをスタートしました。また、子どもたちにも「何事にも粘り強く取り組んでいきましょう」「好きなこと・ものを増やしましょう」と伝えました。小さな一歩から、「まわりにやさしく接し」「よく考えて(かしくく)行動し」「粘り強く活動できるたくましい」子どもの育成を実現したいと思います。校長としての信念をしっかりともち、職員・家庭・地域とつながりながら、子どもたちの成長を見守り続けていきます。

